

## 次回講座のご案内

### ●2019年度 開講講座

「お話し子どもの本の世界へ」

～2019年度の講座を楽しむために～

・日時 4月24日(水) 10時～12時

・会場 熊本市立図書館 集会室

2019年度の各講座の魅力を

プレゼンテーションします！

一般の方も無料で参加できます(申込不要)

\* 講話「本はともだち！」(横田真 理事長)

もお楽しみに。

### ●お話を楽しむ講座



第1回「おはなし会で楽しむ」

小道具の制作と実演

・日時 5月15日(水) 10時～12時

・会場 熊本市立図書館 集会室

～皆様の参加をお待ちしています～



### 本はともだち！



昔から同じ作家の作品を読むことが多かったです。若い頃はSFが好きで、荒巻義雄、山田正紀、栗本薫、ハインラインなどは大手から出版されているものは片端から読みました(実家にほぼ全部残っています)。ストーリーの面白さは当然なのですが、結構大きかったのは文章のリズムです。そのリズムに浸りたくて同じ作家の本を次々と読んでいました。

歳をとるにつれてリズムとともに結構気になつてきたのが、人物の描き方です。悪人というレッテルで人物設定がされていると、その薄っぺらさで嫌になつてしまいます。実際、ある有名な作家の作品は、ストーリーが面白かったので一冊は読んだのですが、それ以降手に取らなくなつてしまいました。

そのような中、最近新しい本が出ると思はず読む作家が藤井太洋氏です。一番新しいのは『東京の子』という2023年の東京を舞台にした近未来小説なのですが、登場する人物

達が悪役ですら憎めない感じでした。安易に善悪という色分けをせず、行動の違いは価値観や育つた環境の違いによるものであるとほのめかしてくれます。彼の出世作でSF大賞受賞の『オービタル・クラウド』では、北朝鮮や中国の諜報機関の人々すら、人間臭く書かれており、ほっとします。『ハロー・ワールド』も含め、安心して読める作家としてお勧めです。

なお、1月号で紹介した黒川伊保子氏も最近フォローしている作家です。最新作『妻のトリセツ』は本当に勉強になります！

(横田 真)



■編集 金子・田原・堀(イラスト) 安田晶子

特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

T861・8029

熊本市東区 西原一丁目一五の二四

T/F 096・382・5090